

その判定にしたがった
デビスカップ

一九二一年(大正10)
熊谷一弥と共に
日本人として
初出場した
群馬の清水は
各国の強豪を
下しデビスカップ
挑戦権を獲得。
シングルズで
アメリカの宿敵
チルデンと対戦
することになった。



おい、日本の
シミスって
去年の
ウィンブルドン
選手権で
日本人として
初出場なのに
決勝まで勝ち
進みアメリカの
強豪チルデンと
たたかった
選手だろ？



そう、わたわりの
ゆるい球でかつさいを
浴びた選手さ

あれには
泣けたね

あと一点で
シミスがその
セットをものに
できるという時
足をすべらせて
ころんだ
チルデンの
真ん前に
いたわりの
ゆるい球を
送った。



逆サイドにうちは
子供でも勝てる
という場面だった
のに……

よしっおれは
日本のシミスを
応えんするぞっ

ジス・イズ・
スポーツマン
シップ!!



インドのカルカッタ支店に勤務しているとき、ベンガル選手権(全インド選手権)に無名でデビューし優勝。大正2(1913)年から8年間、同選手権を制覇しました。

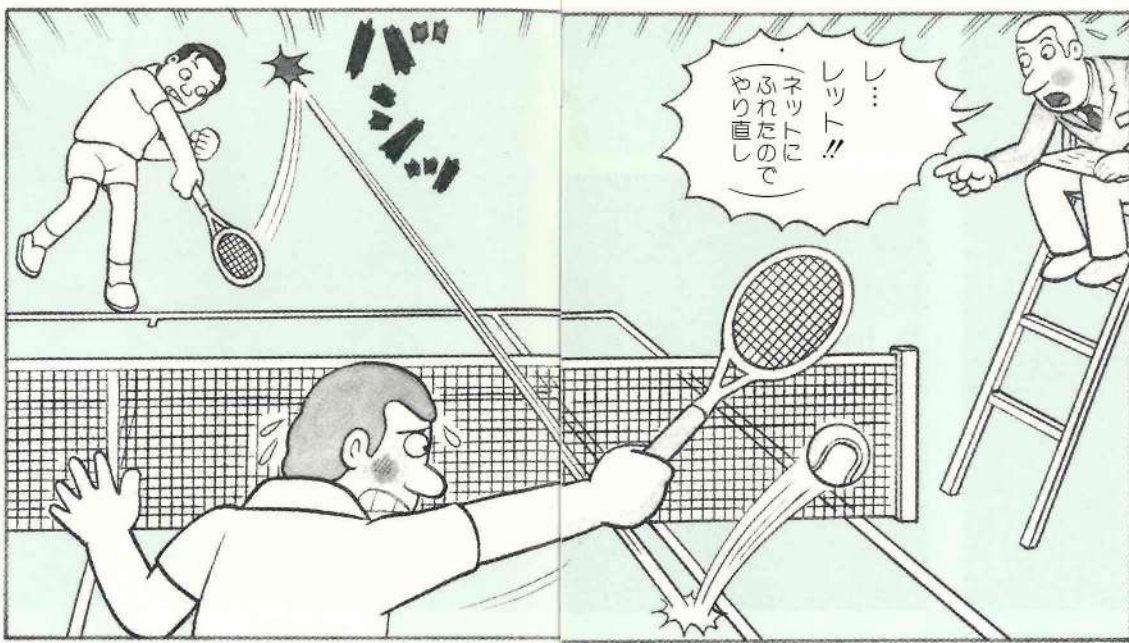
大正9年、渡英してウィンブルドンに出場。「世紀の巨人」といわれたウィリアム・チルデン(アメリカ)と対戦しました。

試合は始まった。
第一セットは
7-5で清水が
とり、第二セットも
5-4とリード。
あと一点で
強豪チルデンに
勝てるんだ!!



群馬のスポーツ人①

清水善造



ウィンブルドン世界選手権に日本人として、初めて出場、決勝まで勝ち進んだテニスプレーヤーが群馬県から生まれています。それが清水善造です。

彼は、明治24(1891)年、群馬郡箕郷村(現在の箕郷町)に生まれました。旧制高崎中在学中にテニスを始め、その後東京商高(一橋大)を経て、三井物産に入社。

やった!!
サーブ
エースだっ



ネットには
さわっていない
のに……

この一球で
試合の流れは
変わり、清水は
このセットを
失ない第四
セットは足に
けいれんを起こし
とうとう勝利を
にがしてしまった。



その告別式に
列席した
テニス関係者
らは牧師から
意外な事実を
知らされた。

五十六年前の
デビスカップでの
明暗を分けた
一球は実は
ネットにぶれて
いなかったと
いうことです。



しかし
この年の世界
ランキング三位
という栄光に
輝いた清水は
一生を日本
テニス界の
発展にささげ、
一九七七年
(昭和52)四月十一日
八十六さいで
この世を
去った。



あの時うその判定を下した審判は一生なやみ続け、死ぬ間ぎわにその罪を告白したということです。
な、なんということだ!! さぞくやしかったろうに彼は一度も不満を口にしなかった……
参列者一同は改めて清水の偉大さを知った。

